

11・3をみんなの行動方針に 改憲唱和の自民党総裁選—総選挙と対決を

都内で9月14日、11・3労働者集会の賛同団体・賛同人会議が行われました。国鉄闘争全国運動呼びかけ人の金さんと改憲戦争阻止！大行進の高山さんの発言を紹介します。(文責・事務局)

反転攻勢の状況を活用し11・3へ

金元重 (国鉄闘争全国運動呼びかけ人)

3労組のアピールで現状は言っていた感じすけども、私の実感を手短に付け加えたい。

1つは、8・6ヒロシマの成功あるいは動労千葉国際連帯委員会が力を尽くしてきた韓国・旭非正規職支会の勝利など、私たちが高揚感を感じることができる闘いの成果が確認されていると思います。

中国の「孫子の兵法」で戦いは勢いが大事というようことが言われています。勢いを活かしていく闘いが大事だと。まさに私たちはそういう状況にあるのかなと思います。

その1つとして、特に関西生コン支部をめぐる闘いが、先ほど武谷副委員長が言ったように好転し、反転攻勢が目に見えてきている。

特にメディアが実態を知らせる良い番組を作って、関西の毎日放送、最近も関東のTBSで深夜放送、どこまで見てもらえたかわかんないけどテレビで放映された。

関西生コン支部を支援する千葉の会の例会で、竹信三恵子さんのyoutube番組「仰天の現場証言―無罪の被告人と兵糧攻めされる業者」を観たのですが、武谷副委員長も出演して関西生コン支部の産業界労組についてイラストも扱いながら非常に分かりやすい番組でした。こ

ういうものがyoutubeで見られるようになった。

私たちが関西生コン支部弾圧との闘いを始めた頃は、私自身の理解も不十分だったし、何をどう分かってもらえば良いのか手探りだったけども、今はテレビや東京新聞が報じている。『週刊金曜日』も竹信さんの

バーゼル宣言を私たちの行動基軸に

高山俊吉 (改憲戦争阻止！大行進呼びかけ人)

先日、ある弁護士の集まりに行つた。高山が何を喋るかにみんなが関

心を持つてる。

「高山さん、また日弁連の会長選に出ませんか」と言われた。それはもう十数年前に仕事納めをしてるんだけれど、それが何を意味するのかということだ。やっぱり弁護士がいま何を考えなければいけないのかを、自身の物差しの中でだけでもみんなが考え始めている。ささやかな実践ですがそんな気がしています。

4ページの非常に充実した良い記事を出しています。

つまり、私たちが関西生コン支部支部の闘いをする上で宣伝材料、学習材料が非常に豊富になってきている。竹信さんの番組で武谷さんは「いま大事なことは知ってもらおうこと、知ること」と言っていたけれども、その条件が整ってきている。

これを活用しながら11・3集会の宣伝、勧誘に使っていくことが大事じゃないかと思えます。状況は1〜2年前よりはるかに良くなっています、これを使わない手はないと思っています。そこを強調したい。

す。何をしたらいいのか。

私は、話の最後に2つのことを言うんです。弁護士は事実を正面から直視しなければいけない。それをしていないのは弁護士ではない。もう1つは、弁護士は闘わなければいけない。闘わない弁護士は弁護士ではない。

この2つを言うことにしている。私の強い実感だから。弁護士という中間的で、仕事の中から当然出てくるものがない、そういう職層の人たちの中にも、この時代が非常におかしい状況になってきて、自分の行動

【裏面に続く】



11・3 全国労働者総決起集会

11月3日(日) 正午 日比谷野外音楽堂
午後3時 改憲阻止! 1万人行進 (東京駅へデモ)

の基軸をどこに求めたらいいのかわからず、考え始めている状況がある。このことが時代の現状を示す大きな指標になっている。

私たちの闘いは、実は根底のところで深く結びついている。自民党総裁選や立憲民主党代表選のあつたを皆さん方どう見ますか。9人の自民党総裁候補は、みんな声を合わせて改憲だと言っている。立憲民主党代表選は誰一人これを批判しない。

こつこつ構造の中で、この国の政治の方向を決める。おかしい話じゃないか。そうみんな思い始めている。そのことが私たちの基本的な闘いの基盤を作っていると思います。

折に触れてお話を(第一次世界大戦勃発直前の)1912年11月の「バーゼル反戦宣言」、ぜひ改めて目を通していただきたい。当時のバルカン半島や民族紛争の少し難しい状態がその文章の中にはあるけれど、私たちにとつて極



めて実感的な、よくわかる話になってきていることを感じる。

「万国のプロレタリアおよび社会主義者諸君にむかって呼びかける。この決定的な時機に諸君の声をとどろかせよ! あらゆる形式で、またあらゆる場所で諸君の意志を公示し、議会で、堂々と諸君の抗議を申

したて、大衆的な大示威運動に結集し、プロレタリアートの組織と力をもつあらゆる手段を利用せよ! 政府がプロレタリアートの油断のない、熱情的な平和意志にたえず注意するよう配慮せよ! こつこつ、搾取と大衆的殺害の資本主義世界に、諸民族の平和と友好のプロレタリア的世界を対置せよ!」

——これが最後の言葉。その実感があるでしょう。本当に百年以上前の言葉とは思えない。それが私たちの今の行動基軸にそのままなる。私はバーゼル宣言の闘いをしようという意味です。

みんな、がんばろう。第4コーナー、ストレートコースに入ったところで私たちの本当の力が発揮されると思います。